

桜ビジョン推進に係る取組方針の提案

令和7年10月

丹波篠山市桜ビジョン推進会議

1. 桜ビジョン推進の方向性

丹波篠山市の市木である「サクラ」は、観光資源であると同時に、市民の暮らしや景観、地域文化を支える大切な存在である。サクラを将来にわたって守り、美しく咲き続けさせるためには、適切な管理と人の手による継続的な保全が不可欠である。

桜ビジョンの推進にあたっては、サクラを積極的に活用することで市民の関心や愛着を高め、その広がりや人を人材育成や資金の循環につなげ、将来にわたって持続可能なサクラ保全の仕組みづくりが必要である。

2. 基本的な考え方(推進のストーリー)

桜ビジョンの推進には段階的な展開が必要であり、単発のイベントではなく、活用・人材・資金・保全が連動する継続的なサイクルの構築を目指して、以下の取り組みを想定する。

- ① 市民に桜の現状を知ってもらう
- ② 桜に興味・関心を持ってもらう
- ③ 桜を「活用」する機会を増やす
- ④ 桜を「守る人材」と「保全体制」を整える
- ⑤ 桜保全のための「資金」が循環する仕組みをつくる

3. 具体的な取組の提案

(1)桜の「活用」による関心喚起と地域活性化

- ・桜をテーマにした商品開発の推進
(花の塩漬け、フレグランス、酒類、染物など)
- ・桜を軸とした観光利用・イベント展開
- ・飲食業・小売業・製造業など、多様な業種の参画促進
→ 桜が「見るもの」から「関わるもの」へと変わり、関係人口の拡大につながる。

(2)学びと人材育成の推進

- ・学校教育・社会教育における桜学習の推進
- ・桜の観察、育成、保全作業などを学び、体験する実践型学習の実施
→ 将来の担い手である子ども世代を含む市民の関心醸成と人材育成につなげる。

(3)見守る体制と「桜守」の活躍の場づくり

- ・行政や桜協会まかせのパトロールではなく、市民・子どもなど、みんなの「目」による見守り体制の構築
- ・桜守の専門性を活かせる講習会・指導・相談の場の創出
- ・桜協会の活動を全市に展開する仕組みづくり
→ 「一部の人を守る桜」から「みんなで支える桜」へ転換する。

(4)保全の基盤整備(中長期的課題)

- ・桜の所有者の明確化
- ・名木の選定、木札設置
- ・オーナー制度、命名権等の検討

※本分野は、時間・費用・人手を要するため中長期的取組と位置付ける。

(5)資金循環の仕組みづくり

- ・桜商品・イベント等による収益の一部を桜の保全・人材育成へ還元
- ・桜の保全活動を支えるための寄附募集(クラウドファンディング)の実施
→「使うことが、守ることにつながる」好循環を形成。

4. 取組の実施時期

- ・短期(~3年)

広報、SNS発信、商品化の試行、教育との連携、体験イベント、フォーラム開催

- ・中期(3~10年)

人材育成の定着、全市的な保全体制構築

- ・長期(10年~)

所有者調査、オーナー制度、命名権等

→ まずは「すぐできること」から着実に実行し、段階的に拡大する。

5. 取組により見込まれる効果

- ・市民の桜への関心の向上
- ・桜守・協力者など担い手の増加
- ・観光・商品開発による地域経済の活性化
- ・桜保全に必要な財源の安定確保
- ・次世代への桜文化の継承

6. まとめ

以上により、桜を活用し、学び、人を育て、支え合いながら守り続ける循環型の桜ビジョン推進モデルを構築し、行政や市民、事業者、学校がゆるやかに連携し、地域のみんなで無理のない形で桜のある風景を次の世代へつないでいく取組を進めることを提案する。